

第 16 号では、中学生の活躍などをお伝えします。

## 「科学の甲子園ジュニア全国大会に出場」

12月12日(金)～14日(日)の3日間、姫路市で行われた第13回科学の甲子園ジュニア全国大会に鳥取県代表として本校生徒3名(鳥取大学附属中学校生徒3名との合同チーム)が出場しました。

予選となる都道府県大会には、総計27,474人が参加し、予選を勝ち抜いた合計47チーム・282人が、理科や数学などの複数分野に関する知識とその活用能力を駆使してさまざまな課題に挑戦し、競い合いました。

それぞれの競技にベストを尽くし、また他県の生徒との交流を図ることができる大会となり、参加した生徒全員から「楽しかった。また参加したい。」という感想が聞かれました。



## 「中2 大学連携プロジェクト」

12月24日(水)に中学2年生を対象として、岡山理科大学の先生お二人に出張講義を行っていただきました。このプロジェクトは、理科の学習内容が身近な生活でどのように活用されているのか、またどのような原理で実用化されているのかを知ることで、「科学的思考力」、「論理的思考力」などを育成することを目的としています。

1つ目の講義では、基盤教育センターの坂根弦太先生に磁石の性質についてご紹介いただき、班ごとに磁石に関するさまざまな実験を行いました。シャープペンの芯が磁気を帯びる現象や、向きに関係なく引き合うマグフォーマーの仕組み、常温で体験できる超電導などを実際に体験し、生徒たちは科学的思考力や想像力を大いに刺激されている様子でした。

2つ目の講義では、基盤教育センターの高原周一先生に、イオンに関するクイズと実演実験を交えた授業を行っていただきました。身近な物質が電気を流すかどうかを予想し、その理由について考えることで、「なぜ流れるのか」「なぜ流れないのか」を主体的に思考する姿が見られました。

今回の出張講義を通して、生徒たちは科学の面白さに触れるとともに、自ら学ぶ意欲を高め、将来への視野を広げる貴重な機会となりました。

